

## はじめに

鹿児島純心女子大学キリスト教文化研究センターは、平成13年度の発足から今年度でまる15年が経過いたしました。この間、神様の祝福の中多くの方々への祈りやご指導に支えられ活動を続けて来れましたこと、心より感謝申し上げます。平成26年度よりキリスト教文化研究センターの所長を引き継ぎましたが、前任のシスター荒井聰子先生のお働きがいかに柔和で愛に満ちたものであったのか、今痛感しております。毎月開かれる所員会ひとつとっても、シスター荒井先生の所員一人一人への優しさとお心使いに今更ながら頭が下がる思いがしております。

さて平成26年度には大学も創立20周年を迎え、キリスト教文化研究センターでも11月11日のアセンブリーの時間に、音楽を通して建学の精神をより深く体験できるようにと学生を対象にコンサートを企画しました。鹿児島在住の3名の著名なアーティストをお招きし、さまざまな作曲家によるアヴェ・マリアやオペラのアリアなどを歌っていただきました。迫力のある生の歌に圧倒され感動した、幸せな時間を過ごせた、またこういう機会を作ってほしいなど、学生たちもこのイベントを喜んでくれました。

平成27年2月20日には26年度の公開セミナーを開き、長年大学教育とキリスト教の人間教育に携わってこられたドイツ文学者で前フェリス女学院院長の小塩節氏に「大学におけるキリスト教育」と題しまして基調講演をお願いいたしました。大学もこのセミナーをFD・SD研修と位置づけ、教職員一人一人が今一度キリスト教と大学教育を見つめ直す良き機会となりました。ご多忙の中、ご来川下さいました小塩先生に感謝申し上げます。

平成27年は信徒発見150周年にあたる年で、キリスト教文化研究センターでも、平戸・生月方面の主要な巡礼地や教会を巡り、長崎の長いキリシタンの歴史を追体験することを目的に研修旅行を企画しました。日程は9月3日～5日で、鹿児島純心女子学園の現・旧教職員18名が参加してくださいました。参加者の多くの方々から、爽やかな思い出深い貴重な時を過ごすことができた感謝のお言葉をいただきました。この研修旅行の企画から手配までいろいろとご協力をいただきました旅行会社関係、交通関係の方々感謝申し上げます。

そして平成28年2月26日には「見たものと見なかったもの」と題して、本学創立時から教鞭をとっておられる竹山昭神父に27年度の公開セミナーの基調講演をしていただきました。竹山神父は年末から1月にかけて入院され、体調が万全でない中、ご講演をしていただきました。3月には特任教授を退職されましたので、この講演がまるで教職員に対する竹山神父の最終講義になってしまったようでとても印象深い講演でした。先生には有難くお礼申し上げます。

カトリック大学に勤務する教職員として、機会あるごとにキリスト教について理解を深め、創立者シスター江角ヤス先生の精神や願いを学び、分かち合う機会が必要であるとの思いから、これからも各方面の方々のご指導を頂きながら活動を続けていきたいと切に思っております。よろしく願いいたします。

平成28年3月

キリスト教文化研究センター

所長 岡村和信